

事業所における 自己評価結果（公表）

公表：令和 5 年 12 月 1 日

事業所名 コペルプラス川崎教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で 適切である	7	0	・当事業所では利用定員に対して定められている指導訓練室の面積基準を超えるように設置しています。 ・運動スペースもお子様十分に身体を動かすことが出来るように広いスペースを確保しています。	・集団療育やコミュトレの際には動線や広さを工夫しながら取り組んでいきます。
	②	職員の配置数は適切である	7	0	・事業所の開校日には指導員 4 人以上の体制を心掛けています。 ・現状として、保育士または児童指導員の有資格者の配置をしています。	・配置人数は適切だが、余裕の持った人員配置を行っていきたいと考えています。 ・事業所運営の中で、さらなる資格の取得支援を行っていきます。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7	0	エントランスの段差への対応として指導員がベビーカーを運ぶ手伝いなどの声掛けをしている。 子どもにとって見てわかりやすい所に誕生表や行事の掲示をすることで楽しい雰囲気作りを意識している。	・今後も、利用者様が安全で安心して親しみを持って過ごすことが出来るような環境を維持していきます。 ・構造上で配慮できない事に関しましては指導員間で話し合い、補助が必要な方にはお声掛けするなどして指導員で出来る限りのお手伝いをさせて頂きます。

	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	0	ご利用者の意見を参考にしたり取り入れながら改善している。 定期的に用具の整備や消毒を実施している。毎日清掃を行い美化を意識している。	・日々の清掃をしっかりと行っていき心地よく過ごすことができる環境を維持していきます。また、感染症流行の時期には感染症対策を職員間で共有し、感染症対策に努めていきます。 ・また、感染症児童がいた際には貼り紙やLINEで周知しています。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7	0	話し合いや相談する機会を多く設定している。	・今後も、引き続き業務改善を進めるための目標設定を決めて、全指導員で検討していきます。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0	毎年実施し、職員・保護者からの意見を基に検討会を実施している。	保護者からの評価を受けそれに基づいて職員で検討していく。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	0	毎月の課題紹介をHPのブログにあげている。	・保護者からのアンケート調査結果、及び施設の自己評価から支援の質を高めるように心掛けいきます。 ・今後も、HPやファイリングが出来次第、教室通信や公式LINEで周知していきます。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	2	・現在、第三者機関を定めての外部評価を行っておりません。	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	0	事業所内研修・事業所内研修・共に報告書を作成し繰り返し閲覧出来るようにしている。	・今後も本部の研修会以外の川崎市や神奈川県で行われている各種研修会の実施の際には各種研修内容を指導員同士で共有して積極的に参加していきたいと思います。

						・研修に参加した指導員には他指導員とも参加した内容を共有できるような体制作りを進めていきます。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7	0	子どもたちの年齢や発達段階を踏まえてステージを検討している。	保護者のニーズにとらわれすぎず現状の子どもの様子をよく考えて計画を立てていきたい。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	1	アセスメントシートを使用している。	・今後も、引き続き標準化されたアセスメントシートとアセスメントツールを使用していきます。 ・各自の発達段階を固定概念で捉えてしまう事を避けるため、日々の療育の様子を指導員間で共有していき、保護者の方へフィードバック及び相談することで適応行動の状況を図っていきます。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	1	ガイドラインにある内容を把握し、療育に反映している。	自分自身がガイドラインの把握に欠けているように思う為、定期的に全職員での確認できる時間があるといい。

	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7	0	子どもの様子について会議を定期的実施し、全職員ですり合わせをしている。その児に合った個別支援を実施している。 療育前には個々で確認をして療育を担当している。	・今後も、指導員間でサービス提供前に確認を行っていきます。発達に応じて療育の内容や支援方法などの適宜に変更出来るようにしていきます。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	0	子どもの課題となることを職員で会	・今後も「コミュニケーショントレーニング」などのイベントや、

				議を実施し、共有している。	集団活動については各担当を中心に行い、よりよい活動プログラムが行えるようにしていきます。
⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0	同じ課題を実施しないように前回、それ以前の担当した指導員の記録を確認し提示方法を工夫している。	・今後も、過去に実施した活動プログラムを振り返り、活動プログラム内容が固定化しないようにしていきます。また、毎回新鮮な教材を使用し楽しく療育を受けて頂けるよう工夫しながら指導員との活動プログラムの内容を共有していきます。
⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	7	0		子どもの状況を把握したうえで個別だけでなく集団への参加の声掛けも行っていきたい。
⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0	朝礼にて予定や課題、運動の確認などを実施している。	・今後も引き続き、当日の支援内容等を話し合っていき支援内容を確認して共有していきます。また、朝礼で話せなかった内容等はカンファレンスの時間を設定して支援内容の確認などを行っています。
⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	1	集団療育やコミュニケーションの前後に必ず打ち合わせを実施している。口頭ではないが、振り返りや気づいた点は日々の記録として入力して共有している。	・療育終了後にその日行われた支援内容の振り返りを設定していく時間を作ることが出来ない分、情報共有システム「HUG」への入力や緊急性の高いものは管理者へ相談し、翌日や別日に指導員間で話し合う時間を設定していきます。
⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	その日の様子や課題の理解などを記録し共有している。	・情報共有システム「HUG」を引き続き使用して、サービス提供記録等の記録を残していきます。それを利用して、

					日々の支援内容の振り返りやその後の支援内容の検証及び改善につなげています。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7	0	指導員間で集まり話し合う時間を設けている。 ・お子様の発達に合わせて適宜モニタリングを行い、半年に一度に関わらず支援計画の見直しを行っています。その際に、具体的な達成目標や支援内容について、保護者の方や指導員と確認をし、見直しを行います。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	1	・ご要望のあった際には、児童発達支援管理責任者が中心に参加させて頂いております。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4	3	・母子保健やこども、子育て支援等の関係者が集まる会議を主催したり、今後、市の保健センターや子育て支援担当など各関係機関と連携していきたいと思います。 ・引き続き、療育センターとの連携を図り継続して支援内容や支援方法などのアドバイスを頂けるようにしていきます。
	㉓	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0	7	・当事業所では現在、医療的ケアを必要とする、お子様の利用はありません。 ・今後、医療的ケアが必要なこどもの利用がある場合には主治医等と連絡体制を整えるように努めていきます。
	㉔	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0	7	・当事業所では現在、医療的ケアを必要とする、お子様の利用はありません。 ・今後、医療的ケアが必要なこどもの利用がある場合には主治医等と連絡体制を整えるように努めていきます。

	②⑤	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	0	保護者からの要望があれば園に訪問し、子どもの様子や担任の先生と話すことで情報共有を実施している。	・今後も訪問等の機会がある場合には、事業所での様子や取り組みについて説明させて頂き、内容等についても保護者様や職員間で支援内容等の情報を共有していきます。
	②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	2	保護者からの要望があれば就学先に管理者が情報共有を実施している。	・今後も訪問等の機会がある場合には、事業所での様子や取り組みについて説明させて頂き、内容等についても保護者様や職員間で支援内容等の情報を共有していきます。
	②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	1	様々な場所で開催されている研修に参加出来る環境を作っている。	まだ、参加したことがないので今後実施している際には参加していきたい。
	②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	6	現在は実施していない。	・今後、地域の児童館等で行われるお祭りやイベントの情報等を共有させて頂き、本部と確認をしていきながら参加・交流の機会を作りたいと思います。

	②⑨	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	0	7	・現時点で参加の機会はありません。	
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0	FB や療育前後に保護者と子どもの状況について話すようにしている。	・今後も、フィードバック時に話した内容などを指導員間で共有や指導員間でカンファレンスし内容を書面や口頭でお伝えしています。 ・保護者の方が安心して相談が出来るような雰囲気作りや環境設定を行っていききたいと思っています。

保護者への説明責任等	③①	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	2	5	・10月にペアトレを実施し、保護者の方と交流を図る機会を設けました。また、今後も随時ペアトレを実施予定です。	・今後も、状況を見ながらコミュニティレの際にランチ会を使い、職員のお話しや保護者同士で情報交換や情報共有できる時間を提供していきます。また、ペアレントトレーニングも検討していきます。
	③②	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	0	管理者より丁寧に説明をしている。	・保護者様にとって間違いやすい部分や分かりにくい点をまとめていき、マニュアル化をして伝え忘れることのないようにしていきます。
	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7	0		・ガイドラインを元に、お子様の特性や保護者の方の意向、アセスメント時の内容を踏まえて、個別支援計画を作成しています。 ・今後も、分かりやすい支援計画書を作成し、契約時や支援計画切り替わり時に同意を得てから支援していきます。
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	0	保護者からの相談をその場で回答せずに指導員間で話し合ってから再度伝えるようにしている。	・今後は、保護者の方の希望で面談など相談できる環境設定を整えていきます。
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	4	個別・集団療育などで保護者同士が話す機会や一緒に課題に取り組む機会を入れている。	・今後は、ペアレントトレーニングだけでなく交流の機会を作り、指導員や保護者様同士で気軽にお話しできる場を提供していきたいと思います。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0		・今後も引き続き、ご相談を頂いた際には迅速な対応をしていきたいと思います。

					・保護者の方と話した内容は管理者から指導員に報告共有を必ず口頭や書面にてしています。
	㉔	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	0	教室通信やブログ、LINEなどで情報を発信している。 ・今後も、継続して川崎教室通信や公式 LINEなどで発信していきます。教室には、毎月月末のコミトレの案内や休日やお知らせなどの貼り紙も行っています。 ・今後も、InstagramやFacebookなどでは、療育内容や教室運営など様々な情報を発信していきます。
	㉕	個人情報の取扱いに十分注意している	7	0	書庫の施錠やファイルの持ち出しには十分に注意している。 ・今後も、個人情報の保護には十分に注意して業務を行います。 個人ファイルや個人情報は鍵付きの書庫で保管し、PCなどの電子媒体にはパスワードを設定し、職員以外はアクセスできないようにしています。
	㉖	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	1	・口頭での意思疎通が難しい場合は HUG で文面を残し、伝達内容を後で確認出来るような方法を取っています。
	㉗	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	7	現在は実施していない。 ・今後も不特定多数の方々の教室内の出入りは個人情報等の観点からも慎重に検討していきます。
非常時等の対応	㉘	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7	0	マニュアルには全職員が目を通すよう周知し、実施している。 ・各マニュアルを設置し、保護者の方も指導員もいつでも見ることが出来るようにしています。指導員の周知がさらに図れるよう研修などを行っています。

	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出 その他必要な訓練を行っている	7	0	様々な原因設定 での訓練を実施し ている。全利用者 が参加出来るよう に複数回実施して いる。	・今後も、半年に一度のペー スで火災・地震を想定した避 難訓練の実施を行っていきま す。 ・避難訓練実施後には、川 崎教室通信やブログなどで実 施内容をお知らせしていきま す。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこ どもの状況を確認している	4	3		・今後も引き続きアセスメント 時に保護者の方からしっかりと 聞き取りを行い、聞いた内 容を初回療育前には指導員 全体で共有していきます。 また、HUG システムに情報を 入力し全員がいつでも確認 できる状況にしています。
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指 示書に基づく対応がされている	5	2	教材などで該当の 食品等がある際は 他の教材を使用し て対応している。	・食事提供は今後も行ってい く予定はありませんが、アレ ルギーの有無や注意事項等は 情報共有 HUG に入力した り、指導員間で共有してい きます。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有し ている	7	0	ヒヤリハットを作成 し、全職員で共通 認識を行っている。	・ヒヤリハットに該当する事例 が起こった際は報告書を作 成、再発防止策の検討、全 指導員共有をしています。ま た、他事業所の報告書も月 に一度全体で集計し、共有 し対応しています。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保す る等、適切な対応をしている	7	0	定期的に研修やミ ニテストをするなど で共有を図ってい る。	・今後も、本部の研修以外 の川崎市や神奈川県で行わ れている各種研修会に参加 し、研修内容を研修報告と して提出し指導員同士で共 有していきます。

	④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7	0	契約書類に記載している。また、全指導員でも身体拘束をしない対応策を日々話し合いを行っている。 ・今後、身体拘束が必要な場面が発生した際は、保護者やこどもに説明を行うとともに、場合によっては対象の、お子様に指導員が張り付いた状態での支援を行う等の状況に合わせた対応をしています。
--	----	--	---	---	--

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。